

広島県の行政改革に伴う教員の削減について

○平成3年度から平成13年度にかけての広島県公立学校教員数（本務者）の推移⁽¹⁾

平成3年度：小学校10,902人，中学校6,511人，高等学校5,655人

平成13年度：小学校9,884人，中学校5,505人，高等学校5,158人

総計23,065人が20,547人に，2,518人（10.9%）減少している。

○平成12年度から平成21年度にかけての広島県教育委員会の教職員数削減計画⁽²⁾

定員の約10%を10年間で削減しようとしている。

○結論

教育委員会の教職員数10%削減計画は，児童・生徒数の減少による，平成3年度から平成13年度にかけての教員数の自然減の割合（1年あたり1.1%）とほぼ同じである。この計画は児童・生徒数の減少によって当然予想される範囲の削減であり，これが教員採用数の新たな減少要因となることは考えられない。

広島県の教員の年齢構成は30歳代後半から50歳代前半に大きなピークがある分布をなしている⁽³⁾。そのため，数年後からは教員の大量退職が見込まれる。その補充は教員採用数の新たな増加要因となり，今後，教員の採用が増加していくことは確実である。

○資料

(1) <http://db1.pref.hiroshima.jp/>

(2) <http://www.pref.hiroshima.jp/soumu/jinji/gyousei/gyou1.html>

(3) <http://www.hirojo-u.ac.jp/~w3dev/inoki/kyousai.htm#age>